

LNEG・NEDO 実証事業 MOU 署名式・東大使挨拶文

2015 年 7 月 22 日

於：環境・国土・エネルギー省

アルトゥル・トリンダーデ（Mr. Artur Trindade）エネルギー担当副大臣、
テレザ・ポンセ・デ・レアオン（Ms. Teresa Ponce de Leão）国立エネルギー地質研究所（LNEG）所長、

国吉 浩（くによし ひろし）国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）理事、

ご列席の皆様

本日は、「LNEG」と「NEDO」との自動ディマンドレスポンス実証プロジェクトの MOU 締結式にお招き頂き、ありがとうございます。

皆様御存知のとおり、日本とポルトガルとの友好関係は、16 世紀に遡ります。約 470 年に及ぶ友好関係の中で、昨年 5 月には安倍総理の歴史的なポルトガル訪問、本年 3 月にはパッソス・コエーリョ首相が日本を訪問されました。

いずれも歴史的な意義を持つもので、安倍総理のポルトガル訪問は、現職の日本の総理としては初めての訪問、また、パッソス・コエーリョ首相の訪日は、首相の訪日としては 25 年ぶりとなりました。

これら両国首脳レベルでの相互訪問により、日本とポルトガルとの二国間関係は飛躍的に緊密になっており、更に昨年 7 月に日本が CPLP にオブザーバー加盟したことにより、両国の CPLP 諸国における協力関係強化も期待されております。

このような中で、昨年 5 月の安倍総理のポルトガル訪問の際には「両首脳による共同コミュニケ」が公表され、「自動ディマンドレスポンス実証プロジェクト」も明記されました。また、本年 3 月にパッソス・コエーリョ首相が訪日した際には、「両首脳による共同コミュニケの進捗に関するファクト・シート」が公表され、同コミュニケに記載された取組の進捗状況が確認されました。

近年、CO₂ 削減等の環境への対応を受け、再生可能エネルギーの重要性は益々高まっています。このニーズに応えるスマートコミュニティの構築は、エネルギーや環境対応だけでなく、少子高齢化社会の到来に伴う省力化対応や弱者への配慮も含まれるものです。このようなニーズは、日本とポルトガルの両

国にとどまるものではなく、CPLP 諸国を含む新興国等の世界レベルで進行する都市化社会がその解決を望んでいます。このプロジェクトが両国にとって幅広いビジネスチャンスに繋がることを期待しています。

最後に、このプロジェクトによる両機関及び両国の民間企業との関係の強化が期待されるところでありますが、両国のエネルギー分野における交流を通じ、日本とポルトガルとの二国間関係の更なる発展に繋がることをお祈り申し上げます。

本日は、ありがとうございました。

以上